

2026年3月期 第2四半期（中間期）決算短信〔日本基準〕（連結）

2025年11月12日

上場会社名 ディーエムソリューションズ株式会社

上場取引所 東

コード番号 6549 U R L <http://www.dms.co.jp>

代表者 (役職名) 代表取締役社長 (氏名) 花矢 卓司

問合せ先責任者 (役職名) 執行役員管理部長 (氏名) 吉田 慎一朗 T E L 0422-57-3921

半期報告書提出予定日 2025年11月13日 配当支払開始予定日 —

決算補足説明資料作成の有無：有

決算説明会開催の有無：有（機関投資家・アナリスト向け）

(百万円未満切捨て)

1. 2026年3月期第2四半期（中間期）の連結業績（2025年4月1日～2025年9月30日）

(1) 連結経営成績（累計）

(%表示は、対前年中間期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する中間純利益	
2026年3月期中間期	百万円 11,039	% 10.3	百万円 256	% △16.8	百万円 269	% △12.0	百万円 177	% △12.6
2025年3月期中間期	10,010	10.9	307	8.3	305	5.4	203	5.6

(注) 包括利益 2026年3月期中間期 177百万円 (△12.6%) 2025年3月期中間期 203百万円 (5.6%)

	1株当たり 中間純利益	潜在株式調整後 1株当たり 中間純利益
2026年3月期中間期	円 銭 64.35	円 銭 62.11
2025年3月期中間期	72.77	70.60

(2) 連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率
2026年3月期中間期	百万円 7,875	百万円 3,432	% 43.0
2025年3月期	8,189	3,347	40.3

(参考) 自己資本 2026年3月期中間期 3,383百万円 2025年3月期 3,298百万円

2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
2025年3月期	円 銭 —	円 銭 0.00	円 銭 —	円 銭 23.00	円 銭 23.00
2026年3月期	—	15.00	—	—	15.00
2026年3月期（予想）	—	—	—	—	30.00

(注) 直近に公表されている配当予想からの修正の有無：無

3. 2026年3月期の連結業績予想（2025年4月1日～2026年3月31日）

(%表示は、対前期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する当期純利益	1株当たり当期純利益
通期	百万円 22,830	% 7.9	百万円 800	% 17.8	百万円 798	% 16.5	百万円 515	% 4.0

(注) 直近に公表されている業績予想からの修正の有無：無

※ 注記事項

(1) 当中間期における連結範囲の重要な変更：無

新規 一社 (社名) 一、除外 一社 (社名) 一

(2) 中間連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用：有

詳細は、添付資料8ページ「2. 中間連結財務諸表及び主な注記（4）中間連結財務諸表に関する注記事項（中間連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用）」をご覧ください。

(3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

- ① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 無
- ② ①以外の会計方針の変更 : 無
- ③ 会計上の見積りの変更 : 無
- ④ 修正再表示 : 無

(4) 発行済株式数（普通株式）

① 期末発行済株式数（自己株式を含む）	2026年3月期中間期	2,851,000株	2025年3月期	2,849,000株
② 期末自己株式数	2026年3月期中間期	90,366株	2025年3月期	68,066株
③ 期中平均株式数（中間期）	2026年3月期中間期	2,763,124株	2025年3月期中間期	2,795,679株

※ 第2四半期（中間期）決算短信は公認会計士又は監査法人のレビューの対象外です

※ 業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

（将来に関する記述等についてのご注意）

本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、その達成を当社として約束する趣旨のものではありません。また、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。

○添付資料の目次

1. 当中間決算に関する定性的情報	2
(1) 経営成績に関する説明	2
(2) 財政状態に関する説明	2
(3) キャッシュ・フローの状況	3
2. 中間連結財務諸表及び主な注記	4
(1) 中間連結貸借対照表	4
(2) 中間連結損益計算書及び中間連結包括利益計算書	5
中間連結損益計算書	5
中間連結包括利益計算書	6
(3) 中間連結キャッシュ・フロー計算書	7
(4) 中間連結財務諸表に関する注記事項	8
(継続企業の前提に関する注記)	8
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)	8
(中間連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用)	8
(会計上の見積りの変更)	8
(セグメント情報等の注記)	9

1. 当中間決算に関する定性的情報

文中の将来に関する事項は、当中間連結会計期間の末日現在において判断したものであります。

(1) 経営成績に関する説明

当中間連結会計期間におけるわが国経済は、堅調な雇用情勢や所得環境の改善、インバウンド需要により緩やかな回復基調にあった一方で、依然として続くウクライナや中東の情勢不安や世界的な原材料及びエネルギー価格の高騰や物価上昇により、先行きの不透明な状況で推移しました。

このような事業環境の中、当社グループはダイレクトマーケティング実施企業に対して、マーケティングの各局面において最適なソリューションを提供するべく努めてまいりました。また、積極的な人材採用を行い、営業力及び提供サービスの強化に取り組んでまいりました。

この結果、当社グループの当中間連結会計期間における売上高は11,039,988千円（前年同期比10.3%増）、営業利益は256,031千円（前年同期比16.8%減）、経常利益は269,377千円（前年同期比12.0%減）、親会社株主に帰属する中間純利益は177,808千円（前年同期比12.6%減）となりました。

セグメント別の業績は以下のとおりです。

i) ダイレクトメール事業

ダイレクトメール事業におきましては、充実した営業体制を基盤に、企画制作からデザイン、印刷、封入・封緘作業を一括して手がけるワンストップサービスの提供、郵便やメール便のスケールメリットを活かした提案型営業を積極的に展開いたしました。また、発送代行サービスのオンライン受注や見込顧客別のマーケティング施策を強化することで、販路の拡大を図るとともに、従業員による対面業務を削減することで業務効率及び生産性の向上に努めました。E C通販市場の拡大に伴い需要が増加している宅配便等の小口貨物を取扱うフルフィルメントサービスについては、6月の八王子第6フルフィルメントセンターの開設等の先行投資を行い、サービス提供体制の強化に努めました。

この結果、新規顧客の開拓及び既存顧客からの受注が堅調に推移し、売上高は9,818,841千円（前年同期比11.9%増）、セグメント利益は548,552千円（前年同期比14.3%増）となりました。

ii) インターネット事業

インターネット事業におきましては、コンサルティング型マーケティングサービスの提供を強化するとともに、これまで培ったWebサイトのコンテンツ制作ノウハウを活かしたパーティカルメディアサービス（注）にも引き続き注力いたしました。また、これまでのノウハウを活かしたSNS関連サービスの強化も行っております。

この結果、売上高は535,793千円（前年同期比13.7%減）、セグメント利益は57,334千円（前年同期比57.0%減）となりました。

（注）パーティカルメディアサービスとは、特定の分野に特化した自社Webサイトの運営を通じて、利用者へ有益な情報や各種サービスを提供するサービスです。

iii) アパレル事業

アパレル事業におきましては、子会社である株式会社ビアトランスポーツ（以下、ビアトランスポーツ）の販売体制の整備充実を図るとともに別注商品の企画にも注力しました。また、引き続き為替やインフレ等の外部環境の影響を受けました。

この結果、売上高は685,353千円（前年同期比11.4%増）、セグメント利益は27,759千円（前年同期比38.1%増）となりました。

(2) 財政状態に関する説明

(資産)

当中間連結会計期間末における総資産の残高は7,875,465千円となり前連結会計年度末に比べ、313,922千円減少しました。これは主に、棚卸資産の増加103,806千円があった一方で、現金及び預金の減少207,568千円、受取手形及び売掛金の減少183,235千円及びその他有形固定資産の減少62,711千円があったことによるものです。

(負債)

当中間連結会計期間末における負債の残高は4,443,231千円となり前連結会計年度末に比べ、398,538千円減少しました。これは主に、買掛金の減少236,534千円及び長期借入金の減少204,960千円があったことによるものです。

(純資産)

当中間連結会計期間末における純資産の残高は3,432,234千円となり前連結会計年度末に比べ、84,616千円増加しました。これは主に利益剰余金の増加113,846千円があったことに対して、自己株式の増加31,693千円があったことによるものです。

(3) キャッシュ・フローの状況

当中間連結会計期間末における現金及び現金同等物の残高は、前連結会計年度末に比べ207,568千円減少し、1,153,583千円となりました。

当中間連結会計期間末におけるキャッシュ・フローの状況とそれらの要因は次のとおりであります。

(営業活動によるキャッシュ・フロー)

当中間連結会計期間における営業活動の結果得られた資金は327,486千円（前年同期比78.2%増加）となりました。これは主に税金等調整前中間純利益267,286千円の計上、減価償却費151,764千円及び売上債権の増加額184,087千円があつた一方で、仕入債務の減少額237,387千円があつたことによるものです。

(投資活動によるキャッシュ・フロー)

当中間連結会計期間における投資活動の結果使用した資金は223,720千円（前年同期比36.3%減少）となりました。これは主に有形固定資産の取得による支出153,101千円及び敷金及び保証金の差入による支出50,617千円があつたことによるものです。

(財務活動によるキャッシュ・フロー)

当中間連結会計期間における財務活動の結果使用した資金は311,201千円（前年同期比158.4%増加）となりました。これは主に長期借入金の返済による支出218,010千円及び配当金の支払額63,961千円があつたことによるものです。

2. 中間連結財務諸表及び主な注記

(1) 中間連結貸借対照表

(単位：千円)

	前連結会計年度 (2025年3月31日)	当中間連結会計期間 (2025年9月30日)
資産の部		
流动資産		
現金及び預金	1,361,152	1,153,583
受取手形及び売掛金	2,401,453	2,218,218
棚卸資産	361,083	464,889
その他	219,254	160,144
貸倒引当金	△1,558	△1,472
流动資産合計	4,341,384	3,995,365
固定資産		
有形固定資産		
建物及び構築物（純額）	887,530	919,459
土地	1,584,384	1,584,384
その他（純額）	769,043	706,332
有形固定資産合計	3,240,958	3,210,176
無形固定資産		
のれん	142,706	130,814
その他	51,950	67,647
無形固定資産合計	194,656	198,461
投資その他の資産		
その他	415,238	475,023
貸倒引当金	△2,850	△3,561
投資その他の資産合計	412,388	471,461
固定資産合計	3,848,003	3,880,100
資産合計	8,189,387	7,875,465
負債の部		
流动負債		
買掛金	1,773,307	1,536,773
1年内返済予定の長期借入金	422,970	409,920
未払法人税等	140,061	109,807
賞与引当金	132,480	151,120
その他	472,458	533,857
流動負債合計	2,941,278	2,741,479
固定負債		
長期借入金	1,886,580	1,681,620
その他	13,912	20,132
固定負債合計	1,900,492	1,701,752
負債合計	4,841,770	4,443,231
純資産の部		
株主資本		
資本金	376,677	378,425
資本剰余金	302,844	304,592
利益剰余金	2,708,847	2,822,693
自己株式	△90,270	△121,963
株主資本合計	3,298,097	3,383,746
新株予約権	49,520	48,487
純資産合計	3,347,617	3,432,234
負債純資産合計	8,189,387	7,875,465

(2) 中間連結損益計算書及び中間連結包括利益計算書

(中間連結損益計算書)

(単位：千円)

	前中間連結会計期間 (自 2024年4月1日 至 2024年9月30日)	当中間連結会計期間 (自 2025年4月1日 至 2025年9月30日)
売上高	10,010,488	11,039,988
売上原価	8,358,191	9,301,223
売上総利益	1,652,297	1,738,765
販売費及び一般管理費	1,344,460	1,482,733
営業利益	307,836	256,031
営業外収益		
受取利息	89	1,041
受取配当金	14	13
持分法による投資利益	5,890	14,872
助成金収入	1,282	—
為替差益	—	3,527
その他	1,589	4,185
営業外収益合計	8,866	23,640
営業外費用		
支払利息	8,759	9,634
支払手数料	2	79
為替差損	1,933	—
その他	66	579
営業外費用合計	10,763	10,294
経常利益	305,939	269,377
特別損失		
固定資産除却損	—	2,091
特別損失合計	—	2,091
税金等調整前中間純利益	305,939	267,286
法人税、住民税及び事業税	102,499	89,478
中間純利益	203,440	177,808
非支配株主に帰属する中間純利益	—	—
親会社株主に帰属する中間純利益	203,440	177,808

(中間連結包括利益計算書)

(単位：千円)

	前中間連結会計期間 (自 2024年4月1日 至 2024年9月30日)	当中間連結会計期間 (自 2025年4月1日 至 2025年9月30日)
中間純利益	203,440	177,808
中間包括利益	203,440	177,808
(内訳)		
親会社株主に係る中間包括利益	203,440	177,808
非支配株主に係る中間包括利益	—	—

(3) 中間連結キャッシュ・フロー計算書

(単位：千円)

	前中間連結会計期間 (自 2024年4月1日 至 2024年9月30日)	当中間連結会計期間 (自 2025年4月1日 至 2025年9月30日)
営業活動によるキャッシュ・フロー		
税金等調整前中間純利益	305,939	267,286
減価償却費	90,299	151,764
のれん償却額	11,892	11,892
貸倒引当金の増減額（△は減少）	930	624
固定資産除却損	—	2,091
受取利息及び受取配当金	△103	△1,054
支払利息	8,759	9,634
為替差損益（△は益）	1,773	133
持分法による投資損益（△は益）	△5,890	△14,872
売上債権の増減額（△は増加）	△140,794	184,087
棚卸資産の増減額（△は増加）	△79,908	△103,806
仕入債務の増減額（△は減少）	123,147	△237,387
未払金の増減額（△は減少）	△32,055	28,896
賞与引当金の増減額（△は減少）	27,522	18,639
その他	△14,107	120,830
小計	297,405	438,759
利息及び配当金の受取額	103	1,054
利息の支払額	△8,759	△9,634
法人税等の支払額又は還付額（△は支払）	△104,998	△102,693
営業活動によるキャッシュ・フロー	183,750	327,486
投資活動によるキャッシュ・フロー		
有形固定資産の取得による支出	△354,487	△153,101
ソフトウェアの取得による支出	—	△24,430
敷金及び保証金の差入による支出	△210	△50,617
その他	3,429	4,428
投資活動によるキャッシュ・フロー	△351,268	△223,720
財務活動によるキャッシュ・フロー		
長期借入れによる収入	100,000	—
長期借入金の返済による支出	△186,406	△218,010
ファイナンス・リース債務の返済による支出	△426	—
自己株式の取得による支出	△54	△31,693
配当金の支払額	△33,548	△63,961
新株予約権の発行による収入	—	157
新株予約権の行使による株式の発行による収入	—	2,306
財務活動によるキャッシュ・フロー	△120,435	△311,201
現金及び現金同等物に係る換算差額	△1,773	△133
現金及び現金同等物の増減額（△は減少）	△289,726	△207,568
現金及び現金同等物の期首残高	1,292,976	1,361,152
現金及び現金同等物の中間期末残高	1,003,249	1,153,583

(4) 中間連結財務諸表に関する注記事項

(継続企業の前提に関する注記)

該当事項はありません。

(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)

該当事項はありません。

(中間連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用)

(税金費用の計算)

税金費用については、当中間連結会計期間を含む連結会計年度の税引前当期純利益に対する税効果会計適用後の実効税率を合理的に見積り、税引前中間純利益に当該見積実効税率を乗じて計算しております。

(会計上の見積りの変更)

該当事項はありません。

(セグメント情報等の注記)

【セグメント情報】

I 前中間連結会計期間（自 2024年4月1日 至 2024年9月30日）

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位：千円)

	報告セグメント				調整額 (注) 1	中間連結損益計算書計上額 (注) 2
	ダイレクトメール事業	インターネット事業	アパレル事業	計		
売上高						
外部顧客への売上高	8,774,269	620,911	615,307	10,010,488	—	10,010,488
セグメント間の内部売上高又は振替高	—	—	△20	△20	20	—
計	8,774,269	620,911	615,287	10,010,468	20	10,010,488
セグメント利益	479,966	133,370	20,094	633,431	△325,594	307,836

(注) 1. セグメント利益の調整額△325,594千円は、各報告セグメントに配分していない全社費用△325,594千円であります。

全社費用は、主に報告セグメントに帰属しない一般管理費であります。

2. セグメント利益は、中間連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

II 当中間連結会計期間（自 2025年4月1日 至 2025年9月30日）

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位：千円)

	報告セグメント				調整額 (注) 1	中間連結損益計算書計上額 (注) 2
	ダイレクトメール事業	インターネット事業	アパレル事業	計		
売上高						
外部顧客への売上高	9,818,841	535,793	685,353	11,039,988	—	11,039,988
セグメント間の内部売上高又は振替高	—	—	2,477	2,477	△2,477	—
計	9,818,841	535,793	687,831	11,042,466	△2,477	11,039,988
セグメント利益	548,552	57,334	27,759	633,646	△377,615	256,031

(注) 1. セグメント利益の調整額△377,615千円は、各報告セグメントに配分していない全社費用△377,615千円であります。

全社費用は、主に報告セグメントに帰属しない一般管理費であります。

2. セグメント利益は、中間連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。